

NCJTA NEWSLETTER

北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.org/>

第28号・2008年 2月発行

北加日本語教師会 2008年の春の例会

Sunday, March 2, 2008

San Francisco State University



会長の挨拶

『役割語』の効果と、そこから見えること

南 雅彦

北加日本語教師会会員の皆様は、新年をどのようにお迎えになりましたか。私は年末・年始をサンフランシスコで過ごしました。前回のご挨拶で申し上げましたが、私はサンフランシスコ州立大学 (SFSU) の大学院で、認知意味論・語用論・言語地理学・方言地理学などの言語学諸分野と文化人類学や異文化心理学を含む『社会言語学セミナー』を担当し、また言語心理学・応用言語学・言語教育学などが中心の『第2言語習得セミナー』も教えております。ですから、これらのセミナーを興味深く継続させるため、社会言語学やそのほかの分野での新しい情報を入手してゆくことが不可欠で、そうした私の専門分野から前回のご挨拶では金水敏著の『ヴァーチャル日本語役割語の謎』(2003年 岩波書店)をご紹介しました

(金水氏に関しては以下に詳しくご紹介いたします)。その際、私もこうした事象を『役割固定語』と呼んで、大学院のセミナーで過去10年あまり指導・説明してきたことも書きました。

さて、ビッグニュースです。まず、地道な努力が実りつつあり、北加日本語教師会 (NCJTA) の会員数が増加に転じ、実際に年会費をご納入いただいている方が70名を超えています。これは非常に喜ばしいことだと存じます。皆様ご存知のように、NCJTA秋の例会は *Foreign Language Association of Northern California* (FLANC) と合流していますが、NCJTA春の例会は、サンフランシスコ州立大学

で隔年開催される *International Conference on Practical Linguistics of Japanese* (ICPLJ: 日本語実用言語学国際学会) と合流し、その一部として開催されています。今回、ICPLJは3月1日 (土)、2日 (日) に開催されますので、NCJTA春の例会は3月2日 (日) となります。ここで2番目のビッグニュースなのですが、ICPLJでは大阪大学大学院文学研究科教授で、文法に関する歴史的研究から現代日本語の研究に至るまで幅広く研究されている金水敏氏を基調講演者としてご招待しています。金水氏は2006年に『日本語存在表現の歴史』で新村出賞を受賞されている気鋭の言語研究者です。ですから、ICPLJに2日目に合流して開催される春の例会には是非とも、是非ともご出席ください。皆様もご存知のように、ICPLJの目的は「現場で日本語を教えておられる先生方と、日本語言語学の最先端で活発な研究活動しておられる研究者の方々により有意義な交流の機会を提供し、この2つの分野のかけ橋となる」ことです。金水氏の基調講演のトピックは、もちろん氏の研究分野である『役割語』ですが、アニメやマンガへの興味から日本語を勉強したいという学習者が増加する中、同時にアニメやマンガが『役割語』の宝庫であることも厳然たる事実です。ですから、今回の講演は『役割語』を現場の日本語教育にどのように役立たせることができるのかを考えてみる絶好の機会だと思います。講演の後、金水氏には正午からは北加日本語教師会の皆様と昼食をご一緒くださるようお願いしていますので、ご期待ください。

ここで、金水氏が『役割語 (role language)』と呼び、私が『役割固定語』と呼んできた言語事象を簡単に説明させていただきます。金水氏は『役割語』を「特定のキャラクターと結びついた、特徴ある言葉づかい」と規定し、マンガや翻訳・通訳における役割語の果たしている(読み手・聞き手に与える)効果と歴史的意味を調査されています。『役割語』は、かつての『鉄腕アトム』での「へじゃ」を使うお茶の水博士や、江戸っ子で、卑怯なことが大嫌いなヒゲオヤジの発話を見ればよく理解でき

ます。たとえば、日本を訪問したアメリカ人女性歌手が「フィーリングで伝わるの。気持ちのいい滞在だったわ」と言ったり、アメリカの女優が「東京はイマイチだったけど、京都は本当に気に入ったわ」と言ったり、「重要なのは自信を持つこと。女性にとって、自尊心は大切よ」と（本来は）女性だけが用いていた終助詞や女性に特有の名詞止め表現などを使って、日本語で話したわけではないにもかかわらず、翻訳者や通訳者はこのように訳しますね。また、日本のプロ野球で活躍する外国人選手は多いですが、ホームランを打った試合のインタビューなどで、日本語以外で話した言葉が「思ったとおりのスイングができたぜ」と通訳・翻訳されたりすると、そこにはマッチョな男性という固定したイメージが形成されてしまい、それを讀んだり聞いたりした人はステレオタイプでその選手を見てしまうのではないのでしょうか。

日本語では、さまざまな人称詞と文末表現を用いることで、加算的にバリエーションを作り出すことが可能ですが、英語ではこうした手法には制限があるので方言などを用いて役割語を表現する必要が出てきます。もちろん、役割語の使用はマンガ・翻訳・通訳に限りません。たとえば、山崎豊子の小説『華麗なる一族』が原作の同名のテレビドラマは、つい最近までサンフランシスコでも放送されていましたが、神戸の名門、万俵財閥の物語です。ところが、主な舞台設定が近畿地方であるにもかかわらず、劇中の登場人物は、沖仲仕や山小屋の使用人などのごく少数を除き標準語を話していました。笑福亭鶴瓶のように、ふだんは関西弁を話す役者・お笑い芸人すら、標準語もしくは疑似標準語で与えられた役を演じていました。もちろん、父・長女・次女が関西弁を使用し、妻・長男・次男が標準語を使用する家族がいたとしたら、それは奇妙でしょう。しかし、ここでは名門の誉れ高い一族という上層階級に属する登場人物たちが標準語を使用することで、お互いの距離感、疎遠さを出しているのでしょう。華族出身の母はふだんから子どもたちを呼ぶ際に「一さん」を付けています。たとえば、ある事件の際に、次男も「お母さんに叱られたのは、はじめてですよ」と「です・ます」調で応えるわけです。「オカンに叱られたん、はじめてやなー」とか「オカンに叱られたん、はじめてやでー」とは言わないのです。もしかしたら現実には関西では上層階級でもそう言うのかもしれないのですが、そう言ったら上層階級の家族内での心理的距離感・疎遠さが出ず、お笑いになるので、ドラマはぶち壊しになってしまいます。言い換えれば、役割語としての標準語がこうした距離感を出す効果を持っているのです。一方、沖仲仕は関西弁を使っていました。その沖仲仕は高炉建設に夢を抱く万俵家の長男と仕事上の関わりを持っていますが、その高炉が建設途中で爆発した際、沖仲仕は「若、こんなことで高炉建設あきらめたらあかんぞ！」と長男を励まします。このドラマでは長男の妻は代議士の娘で、閨閥結婚で東京から嫁いできたことになっていますので関西弁を使用しないのはもちろんなのですが、上層階級の標準語が距離感を、一方、関西弁という方言が下層階級の役割語として親密感・連帯感

を醸し出し、このドラマを見ている者にステレオタイプのイメージを呼び起こし、共感を抱かせるのでしょう。いずれにせよ、『役割語』が関西弁や特定の方言という操作を受けて、実際には深刻な問題が、意図的ではないにせよただの滑稽なやり取りにすり替えられてしまう可能性がありますし、ある種の固定観念、さらには偏見を増幅する危険性をはらんでいる可能性も否定できません。このように『役割語』は皆様にとっても興味深いテーマになると思います。

最後に昨秋のご報告をさせていただきます。10月7日（日）には、在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センターとの共催で、北カリフォルニア地区の小・中・高校、コミュニティーカレッジ、大学、日本語学園の日本語教師のための『AdvocacyとAPプログラム』に関するワークショップを開催しました。11月4日（日）には北加日米会（*Japanese American Association of Northern California*：略称JAANC）及び在サンフランシスコ日本国総領事館主催による第34回日本語弁論大会が、同総領事館広報文化センターで開催され、NCJTAも後援団体として参加しました。さらに、先に述べましたように、11月10日（土）には*Foreign Language Association of Northern California*（FLANC）がサンフランシスコ州立大学（SFSU）で開催されましたが、朝から各セッションすべてに日本語の発表が少なくとも1件以上入っており、日本語関係の発表をご堪能いただけたと存じます。またNCJTA秋の例会はFLANCの午後のセッションの1つとして開催しましたが、ネットワークキングの場としてご活用いただけたと考えています。なお、今後はFLANCのニュースレターにも日本語教育関連の記事を積極的に掲載してゆく所存です。最後に、12月2日（日）は、習得した日本語の能力を客観的に測定しこれを公的に認定する制度である『日本語能力試験（*Japanese Language Proficiency Test*：略称JLPT）』がSFSUで実施され、北加日本語教師会（NCJTA）の会員の方にも試験監督としてご協力いただきました。皆様、ありがとうございます。SFSUでのJLPT受験者数は年々増加し、今回は540名以上が受験しています。この受験者数は全米8箇所の試験会場でもロスアンゼルス、ニューヨークと並ぶ屈指の規模です。今春も様々なイベントを通して、NCJTAのさらなる発展と活性化のために、メンバーの皆様方と一緒に勉強させていただきたいと思っています。どうかよろしく願いいたします。



2007年 秋の例会報告：

2007年秋の例会は、11月10日土曜日 の午後 *Foreign Language Association of Northern California*（FLANC）のセッションとして サンフランシスコ州立大学（SFSU）で開催されました。Rosa Parks JBBP Elementary Schoolの森岡妙子先生が小学校での自己紹介アクティビティを紹介され、総領事館の山光緑領事、高橋久子さんを含め参

加者、全員が小学生になって楽しみました。その後、ネットワークの時間を楽しみました。また、今回のFLANCでは朝から各セッションすべてに日本語の発表が少なくとも1件以上入っており、日本語関係の発表を堪能し、意義あるものでした。(文責 南)

2008年 春の役員会議事録 :

日時 : 2008年1月27日 日曜日 午後12時~3時
場所 : 286 Dwinelle Hall, UC Berkeley
出席者 : 南雅彦、齊藤真由美、高坂聖子、郷司裕、今瀬博、Tazumi 大塚Scarce、神原若枝、榊原晴子

1. NCJTA春の例会 :

3月2日にサンフランシスコ州立大学でICPLJ6と共催。
場所 : San Francisco State University, College of Humanities, Room (TBA).
12:00 -1:00 昼食&報告
1:00-2:20 key note speaker の金水敏氏 (大阪大学文学部) を囲んで質疑応答。副案として : 神原先生がマンガのコピーを用意。場合によっては南先生が話を補充。

2. 現在の会の状況 : NCJTA会員は100名。会費を払っているのは内70人。

3. 春のニュースレター :

- ・内容と分担、締め切りの決定。
- ・インタビュー担当は 高坂先生。
- ・会費納入の件については、前払いで3月に払う事。
- ・2月15日金曜日を配信日とする。

4. FLANCニュースレター : 今後積極的に記事を掲載する事の検討。FLANCから例会や日本語ワークショップなどの経済的支援も可能なので、今後はFLANCのニュースレターの記事等にも積極的に参加していきたい。次の記事の候補 : Odyssey Schoolの校長先生、郷司先生。

5. 総領事館教育セミナー (2月24日)

日本語教師及びJFMFTP (Japan Fulbright Memorial Fund Teacher Program)元参加者を対象にして教育セミナーを開催予定。講師2名を招き日本の行事と宗教の繋がりについてお話しして頂き、更にクラスで実践できるカリキュラムを紹介しもらう予定。

6. 日米タイムズの新シリーズ「日本語の教室から」 :

「日本語教育の現在とこれから」にかわって、9月頃から開始予定。

<趣旨>北米にお住まいの日本語を母語とする家庭に日本語教育の様々な側面を共に考えて頂く事。北加日本語教師会の活動の広報活動の場として地域の新聞とのつながりを重視する。

<内容>教室でおきた興味深い事柄をめぐって短い雑感を書く。読者に「日本語のクラスにかかわると、こうい

う事があるのか」といった事柄を、読みやすい文章で提供する。具体的には

- ・学生、生徒の思いがけないきばえや間違えが示唆する事
- ・先生と生徒、生徒同士の交流の中で生じる事、例えば助け合いや文化の違いから学ぶ事
- ・現在の若年層の興味や傾向の紹介、又はそれをどうのばしていけばよいのか
- ・書き手(先生)にとって日本語教育にかかわる事はどんな意味があるのか。
- ・教える事の楽しさや難しさ等。

<方法>希望者の間での回り持ち。書ける人が何度書いてもよいが、広い範囲での執筆者が望ましい。このシリーズに参加の為に日頃記事になるような事柄を書き留めておくといよい。これは個人の執筆なので、一つの学校から何人出てもよい。

<担当>規約の中の"小委員会"という形で、榊原、南が日米タイムズの岡田編集長と企画、連絡を担当。それに伴って、日米タイムズ紙を1ヶ月無料試読の機会を利用し、新聞のサポートが個人的にできる人は、読者になる事を検討する。

7. 各種報告

スピーチコンテスト終了
日本語能力試験終了 : 受験者540人、試験監督が30人に増えた。

8. ウェブの広告料金徴収の確認

9. 役員改選、補充の確認



役員会からのお知らせ

北加日本語教師会副会長、書記、会計、ニュースレター編集員、小学校代表、学園代表、コミュニティーカレッジ代表の任期が満了となりますので、役員に立候補ご希望の方は添付の用紙にご記入の上、下記住所までご郵送下さい。

宛先 : Masahiko Minami
Department of Foreign Languages & Literatures
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132



会計からのお知らせ

NCJTAの会費は一般15ドル、学生5ドルです。2008年度分の会費(2008年4月から2009年3月まで有効)を添付の年会費納入用紙といっしょに送ってくださるか、春の例会でお支払いいただければと思います。NCJTAの収入は会費に頼っています。皆様のご協力をお願いいたします。(会計：斎藤)



ワークショップ・イベントのお知らせ

- 教育セミナー
 - 日時：2月24日（日）午後12時20分～午後3時30分
 - 場所：在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター
 - 対象：日本語教師、Returnees from Fulbright Memorial Fund Teacher Program
- Northern California Japanese Teachers' Association (NCJTA) Spring Meeting
北加日本語教師会春の例会
 - 日時：3月2日（日）正午～午後1時（昼食）午後1時～2時20分（ミーティング）
 - 場所：San Francisco State University, College of Humanities, Room (TBA).
 - 春の例会は隔年開催される *International Conference on Practical Linguistics of Japanese (ICPLJ)* の一部として行われます
 - 演題：『ヴァーチャル日本語役割語の謎』（2003年 岩波書店）著者、金水敏氏を囲んで昼食会を開催します。金水敏氏は大阪大学大学院文学研究科教授で、文法に関する歴史的研究から現代日本語の研究に至るまで幅広く研究されています。また、2006年には『日本語存在表現の歴史』で新村出賞を受賞されています。金水氏の基調講演にどうぞご期待ください。
 - サンフランシスコ大学教授で *Foreign Language Association of Northern California (FLANC)* の会長も務められた永田憲子氏も発表されます。今回、永田氏は『ロボ先生』という新しいオンライン教科書を紹介されますが、その特徴は自然言語処理能力とフィードバックの生成力にあると言えるでしょう。つまり、自然言語処理技術によって、日本語学習者は自由度の高い文を作る練習が可能となり、間違えると即座に詳細なフィードバックを受け取るこ

とができるという便利なプログラムです。このご発表にもご期待ください。



先生の紹介欄

宇田陽子先生の紹介

1) お名前を教えてください

宇田陽子です。

2) 教えている学校名、町を教えてください。

サンフランシスコのシティーカレッジと桑港学園です。

3) 日本語教師はいつから？

2001年から2年間東京で教えていました。アメリカでは2006年からです。

4) ご趣味は？

手芸、旅行

5) 日本の出身地は？

兵庫県です。

6) アメリカに来てから何年ですか？

4年半です。

7) 仕事について、なにか一言お願いします。

最近学校によって、学生のニーズが全く違うことを感じています。そのため一つのやり方に固執せず、柔軟な姿勢で学生と向き合っていこうと思っています。

8) 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

まだアメリカで教え始めて日が浅いですが、これからも色々なものを吸収して授業に生かしていければと思っています。よろしくお願いします。

編集後記

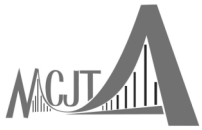
春学期も始まり、会員の皆様、諸先生方には、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今回のニュースレターも日本語教育に関する話題を充実させました。今後とも、会員の皆様からのご投稿をスタッフ一同心からお待ち申し上げております。どうか、お気軽にご意見、ご質問、ご感想等を、南、神原、高坂、今瀬までお送りください。

南：mminami@sfsu.edu

神原：wkambara@berkeley.edu

高坂：skosaka@berkeley.edu

今瀬：hiroimase@yahoo.co.jp



北加日本語教師会連絡先

NCJTA

Officers

<事務局>

<http://www.ncjta.org/>
NCJTA. c/o Masahiko Minami
Department of Foreign Languages
サンフランシスコ州立大学
San Francisco State University
1600 Holloway Avenue
San Francisco, CA 94132
(415) 338-7451
<http://online.sfsu.edu/~mminami/>

<役員>

会長/CEO : Masahiko Minami 南雅彦
(同上)

副会長 : Kazue Masuyama 増山和恵
University of California, Sacramento
E-mail: masuyama@saclink.csus.edu

書記 : Haruko Sakakibara 榊原晴子
University of California, Davis
E-mail: hosakakibara@ucdavis.edu

会計 : Mayumi Saito 斎藤真由美
University of California, Davis
E-mail: msaito@ucdavis.edu

ニュースレター編集委員 :
Seiko Kosaka 高坂聖子
University of California, Berkeley
E-mail: skosaka@berkeley.edu

<各レベル代表>

小学校 :

Taeko Morioka 森岡妙子
Rosa Parks JBBP Elementary School
E-mail: Taeko3568@aol.com

Yu Goji 郷司裕

Clarendon Elementary School
E-mail: taizoji@hotmail.com

中学校 :

Hiroshi Imase 今瀬博
Odyssey School
E-mail: hiroimase@yahoo.co.jp

高校代表/フランク連絡員兼任 :
Atsuko Morse モールス厚子

The College Preparatory School
E-mail: ahmorse@aol.com

学園代表 :

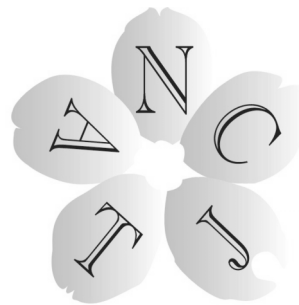
Mikiko Shimabe 島邊美紀子
San Jose Betsuin Lang. School
E-mail: mikishimabe@hotmail.com

コミュニティーカレッジ代表 :

Tazumi Scearce シアース多都美
469 Tovar Drive, San Jose, CA 95123
E-mail: tazumi@comcast.net

大学代表 :

Wakae Kambara 神原若枝
University of California, Berkeley
E-mail: wkambara@berkeley.edu



Northern California Japanese Teachers' Association